

第2節

年齢階層別の障害者数

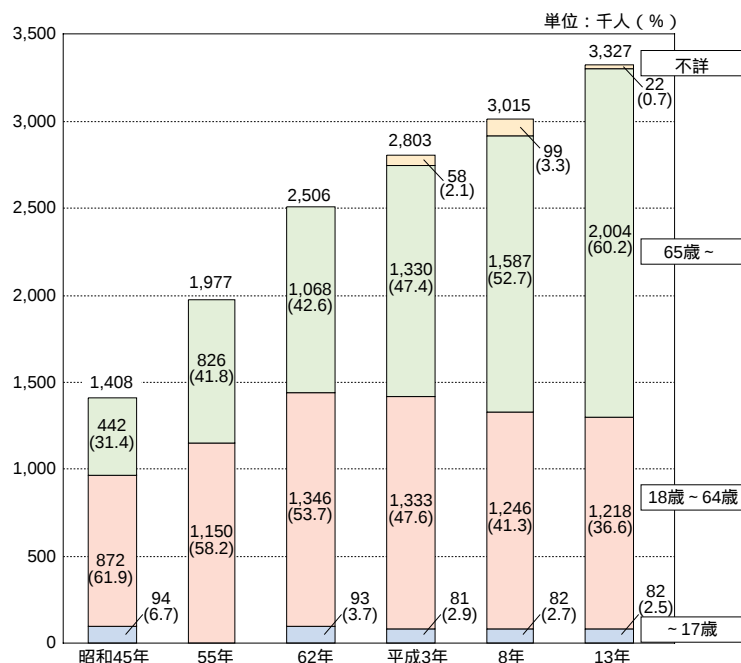
1. 身体障害者

在宅の身体障害者332.7万人の年齢階層別の内訳を見ると、18歳未満8.2万人（2.5%）、18歳以上65歳未満121.8万人（36.6%）、65歳以上200.4万人（60.2%）であり、70歳以上に限っても148.2万人（45.7%）となっている。我が国の総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は調査時点の平成13年には18.0%であり、

身体障害者ではその3倍以上も高齢化が進んでいる状況にある。

65歳以上の割合の推移を見ると、昭和45年には3割程度だったものが、平成13年には6割まで上昇している。このことは、年齢階層ごとの身体障害者の割合の違いに関係している。人口千人当たりの身体障害者数は、18歳未満の3.6人から年齢が上昇するにつれて増加し、60歳代後半で72.1人、70歳以上では96.2人となっている。このように、高齢になるほど障害の状態になる可能性が高まることから、人口の高齢化により身体障害者数は今後も更に増加していくことが予想される。

● 図表1-2 年齢階層別障害者数の推移（身体障害者・在宅）



注：昭和55年は身体障害児（0～17歳）に係る調査を行っていない。

資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」

● 図表1-3 年齢階級別にみた身体障害者数（在宅）の人口比（対千人）

単位：人								
0～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
3.6	3.7	3.9	5.4	13.0	24.2	46.5	72.1	96.2

資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成13年）